

令和6年度



園だより



文京区立根津幼稚園

夢と希望を子どもたちに

園長 小島 喜代美

長かった夏休みを終え、いよいよ二学期がスタートしました。子どもたちは、久しぶりに先生や友達と再会したことを喜び、園内には元気な声が響いています。長期休業があったことで、気持ちも新たに、心も体もひと回り大きくなったように感じます。

今年の夏は、記録的な猛暑が続いたかと思うと突然のゲリラ豪雨となり、甚大な被害が起きていることに自然の猛威を感じています。被災された皆様には、お見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興を願っております。

そのような中、「2024パリオリンピック」がフランスで開催されました。TEAM JAPAN では、「一歩、踏み出す勇気を。」というコンセプトを掲げ、どの選手もオリンピックという独特の雰囲気の中で、緊張や重圧を乗り越えながら自分自身と向き合い、熱戦が繰り広げられていきました。一人一人の選手の皆さんが、これまで自分の力を磨き上げてきた成果を発揮すべく、全力で競う姿が印象的でした。後のインタビュー等で知り、驚いたのは、実は大きなケガをしていて、パリオリンピックに出場できないのではないかと、選手生命も危ういかもしれないという状況になっていた方が多かったことです。辛い状況になっても「諦めない」「地道に努力する」「自分は絶対にパリオリンピックに出場する」などの強い精神力をもち、リハビリや練習を続けてきたことが実を結び、素晴らしい成果を上げていました。しかも、選手の皆さんの素晴らしさは、「自分だけの力で良い結果が出たのではない。応援してくださった方、自分を支えてくださった方々がいたからこそ、今の自分がある。このような結果につながった。」「諦めなくてよかった。頑張ってきた甲斐があった」など、周囲の皆さんへの感謝の気持ちを語っていたことです。

また、団体戦では、一人一人の頑張りが成功するよう祈るような思いで見守る仲間の姿、「上手いかなかった」という場面ではプラスのメッセージを送り、仲間同士が支え合っている姿があり、そのことが金メダルや銀メダルなどという結果につながっていたことにも胸が熱くなりました。そして、オリンピックという様々な国の人々がともに競い合う中で、時にはライバルになったり、時には相手を讃えたりするなど、国を越えたつながりを感じる場面も多く見られました。これらの感動的な場面を親子で観戦し、話題となったのではないのでしょうか。子どもたちは「カッコいい」「すごい」「自分もやってみたい」など、感動したり、夢を抱いたりする機会となったと思います。幼稚園でも、この大切なパリオリンピックの話題を取り上げていき、感動を共にしたいと思います。

さて、今回のパリオリンピックを通して感動したこと、印象に残った姿などは、幼稚園での子どもたちの遊びや生活を通じた「学び」が土台となっていると実感しています。特に、幼稚園の最高学年である5歳児ほし組では、自分たちの遊びを進めることだけでなく、幼稚園全体のことも考えながら、当番活動や係の仕事を進めています。根津幼稚園では、10月5日（土）に開催する運動会でも、自分たちの演技や競技はもちろん、司会や係の仕事も行っていきます。一人一人が力を発揮することはもちろんですが、友達と協力し合うことも大切にしていきます。9月は運動会に向けた取り組みを積み重ねていきます。4歳児はな組、3歳児りす組が、ほし組の姿に憧れを感じる経験も大切にしていきたいと思っています。

この夏には、園長として「特定非営利活動法人日本コーディネーショントレーニング協会（JACOT）認定普及員ライセンスセミナー」を受講し、JACOT 認定ライセンスを取得してまいりました。運動的な遊びの機会をつくり、「くの字運動」「Sの字運動」「ラディアン」「クローリング」等、様々な動きを取り入れながら脳神経に刺激を与え、子どもたちのもっている潜在能力を高めていく一助にしたいと考えています。一人一人の興味・関心のあることがますます豊かに育まれていくことを願っています。